





いつもの道が溶け始める

かはたれどき。



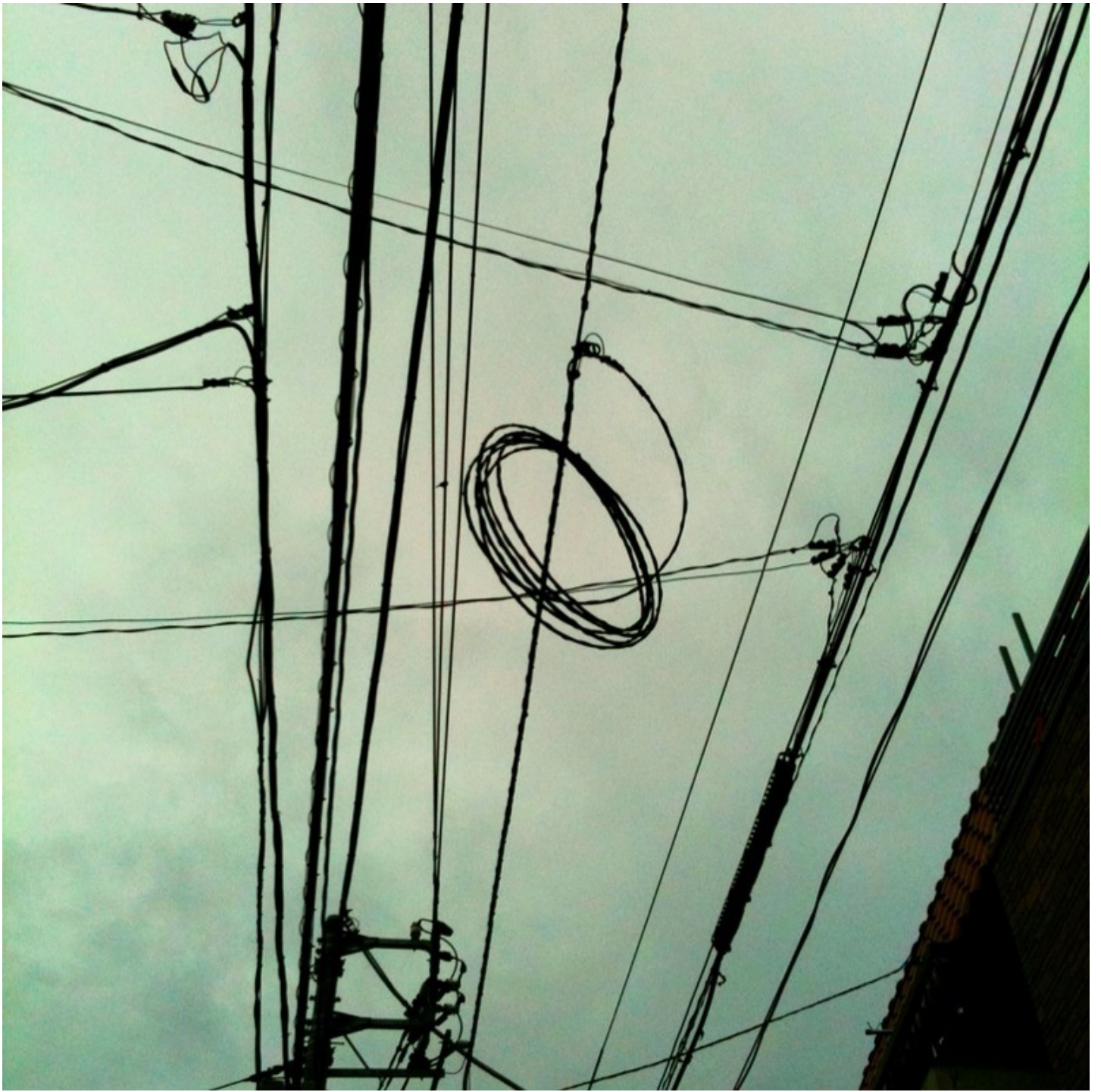


線を外れながら、



歪みを孕みながら、





往っては戻る。

いつか来た道を何度も、何度も。



生きたい。

往きたい。





線の、  
身体の、  
輪郭が消されていく。



かはたれどきは、

おうまがどき。





ふと、  
誰かの気配。



誰にも届かない声で

問う。





彼は誰？